

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

空欄補充・選択・記述・論述

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

論述形式の問題が、字数指定から行指定に変わった。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]	空欄補充 選択 記述 論述	細胞 進化	生物	問2 小器官 A(葉緑体)の画分には原核生物型のリボソームが含まれており、細胞質基質の画分には真核生物型のリボソームが含まれている。mRNA は全ての画分に加えていることに注意する。	やや難
[2]	空欄補充 選択 論述	遺伝子	生物	問4 リード文にある「プラスミドに組み込んだ遺伝子からの発現が一斉に起こると、大腸菌ゲノムからのタンパク質合成が抑制され、大腸菌の増殖が阻害されることがある」という内容から考える。 問6 タンパク質 Y の遺伝子の逆向き転写が起こると、タンパク質 Y が合成されなくなる理由については、問題文から読み取ることができないと思われる。	難
[3]	空欄補充 選択 記述 論述	神経 筋収縮	生物	問5(2) Ca^{2+} 濃度の増加量と筋収縮の大きさを関連させて答えることに注意する。	標準
[4]	空欄補充 論述	免疫	生物 基礎	問4 図3より、接種開始 32 週目において、抗体は少ないが、二次応答が起こっていることから考える。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

まずは標準的な知識を尋ねる問題での失点をできるだけ少なくしなければならない。教科書の内容を正確に理解し、説明できるように練習しよう。また、いずれの大問にも考察問題が含まれており、文章の読解力やデータの考察力が試される。初めて見る題材に対しても落ち着いて論理的な思考ができるように、考察問題に慣れておく必要がある。過去問と類似した内容が出題されることがあるので、過去問演習をしっかりと行おう。今回は出題されなかったが、呼吸や細胞分裂などの分野も出題頻度が高いので注意しておこう。分子レベルの内容が多く出題されるため、特にタンパク質が関連するテーマについてはしっかりと学習しておこう。